

水稻品種「愛知135号」 多収栽培マニュアル



令和4年3月

愛知県農業総合試験場

「愛知 135 号」多収栽培暦【移植栽培】

時期	作業	資材/農薬	使用量 10a当り	備考
冬期	土改材散布			必要に応じて土壌改良を行う
5月中旬	種子消毒	地域慣行剤		
	育苗 代かき			
	施肥	側条エース あきだわら用 (26-11-9)	40kg	窒素成分で 10kg/10a
	田植え			栽植密度50～60株/坪 (15.2～18.2株/m ²)
6月下旬～ 7月上旬		適切な除草剤		発生状況に応じて選択する
	中干し	倒伏防止のため肥沃なほ場では強めに行う		
8月上旬	紋枯病防除	前作で発生したほ場では本田防除を実施		
	出穂			
	カメムシ類防除	地域慣行剤による防除を必ず実施		
9月中下旬		黄化率85～90%を目安に収穫(出穂後40日頃)		
	収穫			成熟後速やかに行う 落水は収穫10日前まで行わない
※病虫害防除 ○ 種子消毒・箱施薬 慣行の防除方法に準じて行う。 ○ 本田防除 多肥条件では紋枯病が発生しやすいため、前作で発生したほ場では必ず防除を行う。 カメムシ類による吸汁害を防ぐため、防除を行う。 その他、必要に応じて防除を行う。				

「愛知 135 号」多収栽培暦【V直栽培】

時期	作 業	資材/農薬	使用量 10a当り	備考
冬期	代かきまたは鎮圧整地			
4月中旬	種子消毒	地域慣行剤		
	施 肥	乾田直播くん(あきだわら用) (41-0-0)	30kg	窒素成分で12kg/10a
	播 種	種 子	6kg	2月～3月に播種する場合は 出芽数を確保するため、8kg とする。
5月上旬	除草剤散布	地域慣行剤		非選択性除草剤
5月上中旬	出 芽			
5月中下旬	除草剤散布	地域慣行剤		選択性除草剤
	入 水			
6月上旬	除草剤散布 (初中期一発剤)	適正な除草剤		発生状況に応じて選択する
	紋枯病防除	前作で発生したほ場では本田防除を実施		
8月上中旬	出 穂 カメムシ類防除	地域慣行剤による防除を必ず実施		
9月中下旬	収 穫	黄化籾率85～90%を目安に収穫(出穂後40日頃)		

※病害虫防除
○ 種子消毒
慣行の防除方法に準じて行う。
○ 本田防除
多肥条件では紋枯病が発生しやすいため、前作で発生したほ場では必ず防除を行う。
カメムシ類による吸汁害を防ぐため、防除を行う
その他、必要に応じて防除を行う。

「愛知135号」の特性等について

1 育成の概略

「愛知118号」（「あいちのかおりSBL」にツマグロヨコバイ抵抗性を付与した系統）に高温登熟性を導入したBC₃F₁系統を母本、「あいちのかおりSBL」に早生遺伝子を導入したBC₃F₁を父本として2016年に交配。2019年に「愛知135号」の系統名を付与した。

2 栽培特性

- 出穂は「あさひの夢」より1日遅い早生品種。
- 稈長は「あさひの夢」より9cm程度長い。
- 穂長は「あさひの夢」より1.7cm程度長い。
- 収量は「あさひの夢」と同等。

表1 生育・収量データ（2017～2019年産平均・長久手）

品種・系統名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	精玄米重	対照比率	倒伏
	月・日	月・日	cm	cm	本/m ²	kg/a	%	
愛知135号	8.09	9.15	79	21.9	445	61.5	101	0.8
（対）あさひの夢	8.08	9.12	70	20.2	405	61.0	100	0.0

移植は5月中旬 施肥窒素量10kgN/10a 倒伏の多少：0（無）～5（甚）

3 外観品質

- 千粒重は「あさひの夢」と比較して1.7g重い。
- 高温登熟性は「強」であり、「あさひの夢」と比較して白未熟粒が発生しにくく外観品質が優れる。

表2 外観品質特性

品種・系統名	玄米千粒重	外観品質
	g	
愛知135号	23.3	4.5
（対）あさひの夢	21.6	5.6

外観品質：1（上上）～9（下下）の9段階評価。

5＝検査等級1等相当、6＝2等相当、7＝3等相当。



図1 玄米の比較

4 病虫害抵抗性

- イネ縞葉枯病、ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持つ。

表3 病虫害抵抗性

品種・系統名	イネ縞葉枯病	穂いもち ほ場抵抗性	ツマグロ ヨコバイ	セジロウンカ 殺卵作用 ¹⁾	穂発芽の 難易
愛知135号	抵抗性	中	抵抗性	無	やや難
（対）あさひの夢	抵抗性	やや強	感受性	無	中～やや難

1) 産み付けられた卵を殺す作用

「愛知135号」の多収栽培について

1 目標

本マニュアルは、精玄米重 660kg/10a（坪刈り）を目標とし、栽培管理上のポイントをまとめたものである。

2 移植栽培

○ 移植時期

5月中下旬（「あさひの夢」に準ずる）

○ 栽植密度

坪 50～60 株（15.2～18.2 株/m²）を目安に移植

施肥窒素量 12kgN/10a の多肥条件で 50、60 株/坪植えの収量を比較したところ、どちらも精玄米重 660kg 程度であった。このため、坪 50～60 株を基準とする。

表4 栽植密度と精玄米重（2019,2020年産平均）

栽植密度	精玄米重
株/坪	kg/10a
50	655
60	672

○ 施肥

窒素成分 10kgN/10a を目安に施用

精玄米重が 660kg/10a 程度となる成熟期窒素吸収量は 13kgN/10a 以上であると考えられたが、14kgN/10a を超えると甚大な倒伏が懸念された。このため、成熟期窒素吸収量 13kgN/10a を暫定目標とし、施肥量は地力中庸ほ場で 10kgN/10a を基準とする。

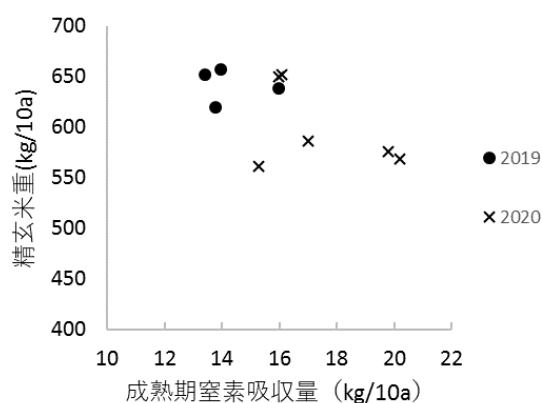


図2 成熟期窒素吸収量と精玄米重
(2019,2020 年産)

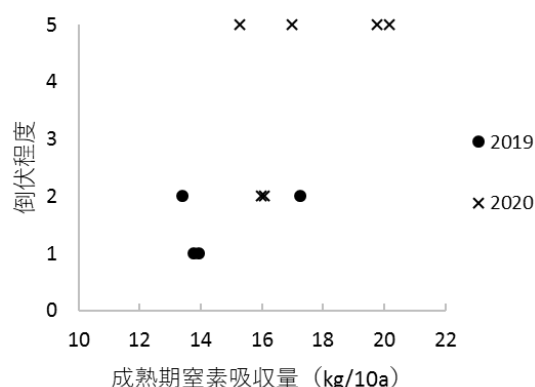


図3 成熟期窒素吸収量と倒伏程度
(2019,2020 年産 , 0 (無) ～5 (甚) の6段階評価)

○ 肥料

側条エースあきだわら用を使用

標準用肥料とあきだわら用肥料を窒素施肥量 12kgN/10a で比較したところ、あきだわら用肥料区では標準用肥料と比較して穂肥成分の肥効発現時期が遅いため、穂数が少なくなるものの、下位節間の伸長がやや抑制され、倒伏が軽減したほか、千粒重が大きく、登熟歩合が高くなり、精玄米重も増加した。多肥条件での倒伏リスクを低減するため、あきだわら用肥料を用いることとする。

表5 成熟期・収量調査結果（2020年産）

肥料	施肥窒素量 kgN/10a	成熟期				精玄米重 kg/10a	千粒重 g	登熟歩合 %
		稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏*			
側条エース標準	12	91	21.5	429	5.0	586	22.6	75.5
側条エースあきだわら用	12	89	22.8	387	2.0	659	22.9	79.8

* 倒伏は0(無)～5(甚)の6段階評価

表6 成熟期の節間長の比較（2020年産）

	標準	あきだわら用
	cm	cm
第Ⅰ節間	39.1	41
第Ⅱ節間	18.5	18.5
第Ⅲ節間	12.9	11.8
第Ⅳ節間	11.5	9.4
第Ⅴ節間	7	6.4
第Ⅵ節間	3.3	3.3

3 V直栽培

○ 播種時期

4月中旬、播種量 6kg/10a（「あさひの夢」に準ずる）

○ 施肥

乾田直播くんあきだわら用を使用し、窒素成分 12kgN/10a を目安に施用

標準用肥料とあきだわら用肥料を窒素施肥量 12kgN/10a で比較したところ、あきだわら用肥料は穂数が少なくなったものの、千粒重が大きく、登熟歩合が高くなり、精玄米重が 660kg/10a 程度となった。このため、あきだわら用肥料を用いることとする。

表7 成熟期・収量調査結果（2020年産）

肥料	施肥窒素量 kgN/10a	成熟期				精玄米重 kg/10a	千粒重 g	登熟歩合 %
		稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏*			
乾田直播くん標準	12	87	21.6	435	1.0	624	23.5	80.9
乾田直播くんあきだわら用	12	83	20.6	370	0.0	654	23.9	91.2

* 倒伏は0(無)～5(甚)の6段階評価

4 病害虫防除

○ 種子消毒・箱施薬

地域の防除方法に準じて行う。

○ 病害

多肥栽培のため紋枯病防除を徹底する

多肥栽培では紋枯病が発生しやすく、倒伏・減収のリスクが高まる。紋枯病の菌は、ほ場で越冬するため、前作で紋枯病が発生したほ場で栽培する場合は、必ず本田防除を実施する。

穂いもちに注意する

葉いもちの発生ほ場では、秋の長雨等により穂いもちが発生する場合があるので注意する。

○ カメムシ類防除

本田防除を必ず実施する

カメムシ類による吸汁害は、玄米品質を低下させるだけでなく、大幅な減収につながることもあるため、本田防除は必ず行う。周辺ほ場と出穂期が異なる場合は、出穂期にカメムシ類が集まりやすくなるため、ほ場の選定には注意する。

○ セジロウンカ防除

殺卵作用がないので、7月下旬～8月に多発しているほ場では防除を実施する。

5 雑草管理

発生状況に応じて適正に行う。

6 収穫

黄化籾率 85～90%を目安に収穫する（出穂後40日頃）

刈り遅れによる品質低下を防ぐため、成熟後は速やかに収穫する。

また、早期の落水は登熟が悪くなり、収量を低下させるため、収穫10日前までは落水しないようにする。

内容に関する問い合わせ先

愛知県農業総合試験場 普及戦略部技術推進室
作物研究部作物研究室

〒480-1193

愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

電話 0561-62-0085（代表）

水稻新品種「愛知 135 号」の栽培について

「愛知 135 号」は、中外食向け早生品種の育成を目的に、業務用としても評価の高い大粒の中用品種「あいちのかおり S B L」を早生化するとともに高温登熟性を付与した品種です。

当面は水稻多収品種導入協議会で取り扱いますが、令和7年の奨励品種化後は、極早生：早生：中生＝35:30:35 を目指した栽培推進を行っていきたいと考えています。

記

1 産地品種銘柄

産地品種銘柄「愛知県産あいちのこころ」として令和4年度から取り扱えるよう手続きを進めています。

2 品種特性

特 性	愛知 135 号	あさひの夢	あいおのかおり SBL
稈 長	79	70	81
穂 長	21.9	20.2	20.5
穂 数	445	405	448
精玄米重 (kg/a)	61.5	61.0	54.7
玄米千粒重	23.3	21.6	23.8
穂いもち病抵抗性	中	やや強	やや強
耐倒伏性	中	強	中
高温登熟性	強	中	弱
食味	上の上	上の中	上の上

3 栽培の要点

(1) 施肥

- ・ 移植栽培 あきだわら用肥料 N10kg/10a
- ・ V溝直播 あきだわら用肥料 N12kg/10a

(2) 栽培場の注意点

- ・ 多肥、中干しが不十分な場合は、倒伏が懸念されるので注意する。
- ・ 葉いもち病の発生、秋の長雨・低温等の際には穂いもちの発生が嫌煙されるので注意する。